

四方山通信

7月号

石城山岳会事務局編集

金塚山(855m)

2016年7月20日 秋葉、下山田

梅雨明けも間近、耐暑訓練に荒海山に登ることにして前日に出かけ会津高原駅で車中泊をした。

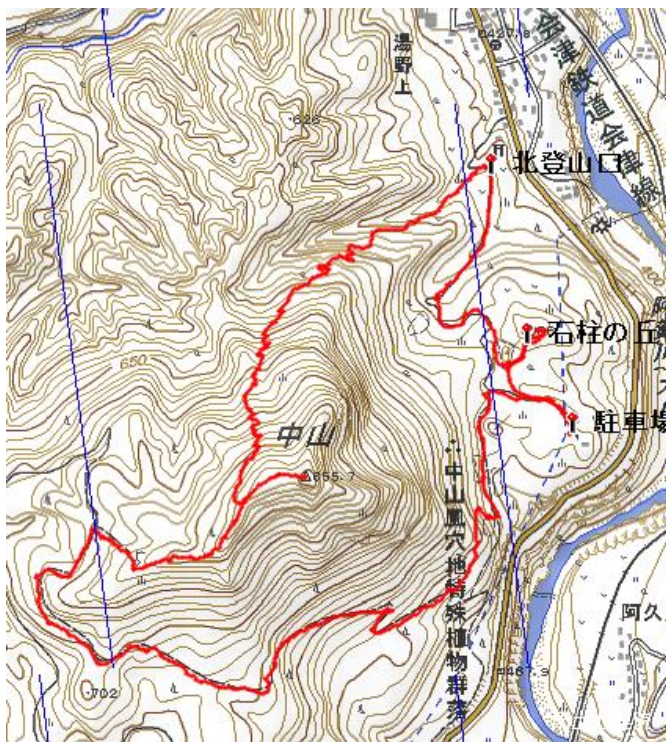
7月20日朝、高原駅を出発し登山口のある八総鉾山跡への道に入ろうとすると「通行止め、入山禁止」の看板とガードがしてあった。あきらめて久しぶりに駒止湿原に行こうと針生地区に入ると「通行止め、入山禁止」の看板があり駒止湿原も諦めざるを得なかった。



仕方がないので中山に行くことにした。金塚山とは天然記念物の中山風穴のある中山の別名である。

駐車場から第五植物群落、第六植物群落から杉の植林地の中の広々とした林道の南登山道を進む、右の階段を登り詰めると電波塔がある。

尾根路を赤く実った野イチゴを摘みながら辿り、もう一つの電波塔を過ぎると、中山への頂上である。



朝食を摂り、帰りは北登山口下ることにする。急なところもあるが距離が短いので時間はかからないが、入口付近は草で覆われていて歩きづらい。

車道を歩き風穴体験場所や第一植物群落、第二植物群落、石柱の丘を経て駐車場へ戻る。



ヤナギランの群生地も見ることができた。所要時間約3時間の満足できる一周コースでした。



(文責：秋葉)

カムイエクウチカウシ山

2016年7月15日(金) 16日(土): 遠藤

ドドドドド！突然、目の前で巨大な熊が急峻な斜面を走り去った。カムイエクウチカウシとは、アイヌ語で熊の転げ落ちるほど急な山というが、果たして現実には転げるのだろうか？

一日目 曇り14℃ 前夜、札内川ヒュッテに宿泊。小屋脇のゲートをくぐりトンネルをぬけ、2時間ほど林道を進むと七ノ沢出合に到着、ここから沢歩きが始まる。渡渉を繰り返し気が付くとハノ沢のテン場、ここで身支度する高齢のグループに情報を頂戴した。迷いながら山頂を極め、昨夜このテン場にたどり着いたのは深夜10時、これから下山するのだという。よくぞ御無事で。大岩とおびただしい流木のハノ沢を詰めるとやがて三本の滝、真ん中の滝を巻くが凄い急斜面だ。さらに進み枯れた沢の斜面で足を滑らせ、澱んだ水たまりにずりりと滑り落ちた。臭い。やれやれと冷たい沢水でズボンを洗濯し、しばし休憩。日が差し明るく、滝の音が響き渡る。しばらく進むと平坦になり、緑の葉に黄色のウコンウツギが咲き乱れている。ハノ沢カールだ。深い霧で稜線は見えないが、残雪のクーラーで涼しく静か、鳥のさえずりと小川のせせらぎが心地よい楽園。テントを設営し大岩の上で午睡を貪る。至福。やがて、目覚まし時計が鳴った。夢か？いや違う笛だ。神奈川からのグループが、クマよけのホイッスルを鳴らしながらガイドと共に下山してきたのだ。このカムエクで300名山を達成したという高齢の淑女を恭しく祝福し、見送った。深夜、霧が晴れ独り占めしたカールの底から星空を眺めた。CT 4:30 札内川ヒュッテ→6:10 七ノ沢出合→8:20 ハノ沢出合→12:40 ハノ沢カール



二日目 晴れ12℃ 東雲の空、朗らかなカールに心を躍らせ、そそくさと身支度する。朝露でぬれる登山道はここでも急登だ。一息で尾根に出ると素晴らしい景色。汗をぬぐい眼前に迫るピラミッド峰が青い空を背に勇ましい。反対側のコイボクカールは斜面一面の花畑で穏やか。稜線の登山道は肩ほどの笹やハイマツで覆われ、なんとも歩きにくい。小さなこぶの巻道の手前で休憩し再び歩き始めたその刹那、こぶの陰から大きな黒い物体が飛び出した。

熊だ！あまりの大きさに驚愕し、身構えることもできず呆然と立ちすくむ。急斜面のハイマツの中に飛び込んでいったが、80mほど向こうの稜線に再び現れ、こちらを伺いコイボクカールへと姿を消した。予期せぬ出会いから、お互い周章狼狽した。鈴を取り出しラジオのスイッチを入れ、ホイッスルを吹き再び山頂を目指す。吹きすぎてハカハカしたが、一人身の精神安定剤にはちょうど良い。晴天の小さな山頂は360度の展望。幌尻岳をはじめコイカクや1839峰を望み、朝日に映される日高の連嶺はどこまでも続きいつまでも眺めていた。カムエクは大変な登山だったが、沢、滝、カールそして展望と魅力ある良いお山だった。下山、七ノ沢出合で昨日の神奈川からのグループに追いつき、長い林道を地元のガイドと雑談しながら歩く。教えてもらった更別の温泉で汗を流すと、脚は生傷とあざだらけだった。CT 3:35 ハノ沢カール→5:07 カムエク山頂 5:30→6:15 ハノ沢カール 6:55→9:16 ハノ沢出合→11:00 七ノ沢出合→13:28 札内川ヒュッテ

(文責: 遠藤)

『4年越しの白山！』

2016年7月19日（火）～21日（木）

菅野

毎年7月に白山山行計画を立てては、雨で中止！ようやく登る事が出来ました。白山まで行って雨の山行はやりたくないですよ！ 白山登山道情報・・・現在別山へのジブリ尾根は登山口付近の土砂崩れの為、通行不可です。道路状況を入山前に確認して下さい。

7月19日（火） 晴れ

平瀬登山口（大白川ダム）⇒大倉山⇒室堂⇒千蛇ヶ池⇒お花松原⇒千蛇ヶ池⇒室堂（泊）

平瀬登山口から入り直ぐに富山から来た年配者のお二人と一緒に登る事になりました。『初めての白山です！』と伝えるといろいろとお花畑についてレクチャーして頂きました。大倉山避難小屋手前の南側では、マイサギソウ（ラン科）を初めて見ました。そのおかげで、お花松原で1時間ゆっくりチングルマの絨毯、白山スミレの絨毯、クロユリの絨毯を堪能する事が出来ました。今回、1番のお花畑でした。



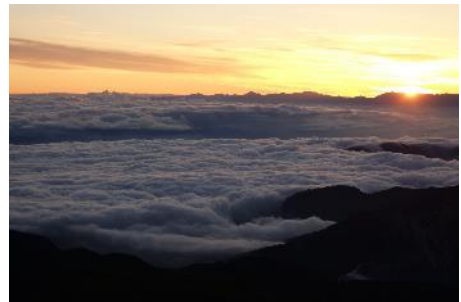
7月20日（水） 晴れ

室堂⇒御前峰（御来光）⇒室堂⇒（トンビ岩コース）⇒南竜ヶ馬場⇒別山⇒別山平⇒別山⇒南竜ヶ馬場⇒（展望歩道）⇒室堂

天候良すぎ～！雲ひとつ無い快晴の御来光を観て山行開始！トンビ岩コース（岩が大きく女性登るのは大変そう）を下り、ニッコウキスゲのお花畑が続く登山道を別山へ。白山とは花の種類が違い良かったです。

別山平の御手洗池では、逆さ別山を見る事も出来ました。南竜ヶ馬場にて休憩がてらの川遊びをしました。火照った足に最高の癒しでした。（行く時にビールや果物を冷やして置いて食べている人がいました。）

帰りは展望歩道コースを登りましたが、雲が掛かりアルプスの峰々は見られず残念！



7月21日（木） 晴れ

室堂⇒御前峰（御来光）⇒御池巡り⇒大汝峰（朝食）⇒七倉山分岐⇒千蛇ヶ池⇒室堂⇒大倉山⇒平瀬登山口

多少雲の有る御来光を拝み山行開始！朝食用に作ってもらった弁当を大汝峰で頂きました。水筒のお茶が昨日の17時半に入れたのでヌル～イ（売店は17時半終了の為）今年の七倉方面のお花畑は、雑草だらけで花少なかったです。登ってくる登山者に、お花松原のクロユリのPRをしながら一気に登山口まで下りました。

平瀬登山口近くの大白川温泉（露天風呂、石鹸シャンプーなし）で山行の汗を流しさっぱりしました。お風呂上がりに湖畔ロッジでハーゲンダッツを頂き、お昼は白川郷で鮎とそばを頂きました。美味かった～ 帰りの富山SAにて高級鱒寿司『極』を買いたべました。鱒が肉厚で美味しかったです。

（文責：菅野）

霧降高原（天空回廊～丸山 1689m）

2016年7月10日(日)

平子、齊藤(富)、渡辺(恵)、西、伊藤、渋谷、りんどう山の会7名 計13名

いわき発6:00→常磐道→日光IC→9:30 レストハウス出発→11:00 丸山山頂→13:00 レストハウス→やしおの湯→道の駅今市→18:00 いわき着

霧降高原という名にふさわしいくらい100%天然マイナスイオンの霧に包まれて天空回廊を心地よく散策。ここはニッコウキスゲで有名なだけでなく、一年を通して花が咲く素敵なおとこです。今回、ニッコウキスゲには一足遅かったのですがシモツケソウ、シャジン、トラノオ、クルマユリなどの可愛い花々が出迎えてくれました。

～ニッコウキスゲ～

朝咲いて夜には萎む一日花。一株に10個程の蕾を付けていて一つずつ咲いていく。何かの本にそう書いてあったことを思い出しました。今日出会えた花々はまさに一期一会ですね！

天空回廊には、天に向かって真っ直ぐ伸びる1445段の階段があり、(この先は、きっと雲の上に達しない!) そう信じて登りました。…まだまだ雲の中でした。。

小丸山展望台にて小休憩。ここで西さんからのうれしいご褒美です！キーンと冷えた水ようかん！皆さんの顔が笑顔になりました(^)ありがとうございました！ここ、小丸山展望台から、かなりの条件が揃えば富士山や筑波山が見えるのだとか…。(ホントかなあ～??)…疑惑を残したまま、丸山山頂へと向かいます。鹿侵入防止柵を通過すると、先ほどまでの幻想的な風景から一気に登山風景になり、そこがまた面白いと感じました。八平ヶ原(やっぺいがはら)に出て、コンパスの使い方、地図と地形を合わせたりと、楽しく勉強も出来ました。

丸山山頂に着くと、軽めの行動食を取り下山開始。ぬかるみの急坂をヒヤヒヤしながら下ります。転がった方が早いね！などとワイワイと楽しい下山でした。

下山後、《やしおの湯》にて汗を流した。充実した施設で510円。ちなみに日光市民なら300円だそうです。

そしてお待ちかねの昼食です！道の駅 今市にて遅めの昼食になりました。

私はわさび蕎麦を頂きました。コレを注文された方々から発せられる声は「うっ!」「ふはあ～」「キターッ!」などなど。震えるうまさに目から涙が溢れる伊藤さん、しびれるうまさに悶絶な平子さん達の目に止まったメニュー。。。熊蒸籠蕎麦。次回は熊さん汁に歓声のことと思っています。



霧に包まれた花々はとても幻想的で素敵な高原でした。今回も楽しい山行となりました。ありがとうございました。

(文責：渋谷)

三大明神風力発電・方法書縦覧 7月29日より

2011年3月11日の大震災、それに続く福島第一原発の事故により、いわき市北部の山と相馬・双葉地方の山は放射線量が高く登山できない状態に陥ってしまいました。事故以来5年経過し、放射線量も下がり一部の山を除いて登山可能となりました。

しかし、脱原発から自然エネルギーへの転換という動きの中で、茨城県から福島県浜通り地方を一大風力発電基地にする計画が出てまいりました。

その内容は、田人風力発電 12 基、三大明神風力発電 18 基、阿武隈山地風力発電（発電出力70万kw、3,500kwの発電機が200基）としていわき市北部から南相馬市に渡って風力発電を設置するというものです。高さ178mの風力発電機が230基も立つ風景を想像してみてください。

風力発電はエコというイメージがありますが既存の風力発電を調べてみると、①自然破壊と生態系への悪影響 ②有効な発電はしておらず、実際は何の役にもたっていない ③採算の取れているところはない ④超低周波等で健康被害が発生 ⑤バードストライク ⑥建設時に山林を広範囲に伐採、作業道路の建設、維持管理費用が莫大 ⑦地元の雇用はない 等の多くの問題があることが分かりました。

今回の風力発電構想が、このまま進められれば負の遺産を残し、故郷の自然を守らなければ取り返しがつかなくなってしまう。



環境影響評価手続きの流れ

- 事業者は計画段階に環境配慮書を作成 ①公告・縦覧
↓ ②意見書の提出 意見を有する者 関係市町村 知事
環境影響評価方法書を作成 ③公告・縦覧 ③説明会
↓ ④意見書の提出 意見を有する者 関係市町村 知事
環境影響評価の実施、準備書を作成 ⑤公告・縦覧 ⑥説明会
↓ ⑦意見書の提出 意見を有する者 関係市町村 知事
意見書に対する事業者の見解
↓ ⑧公聴会の開催 ⑧環境影響審査会
評価書の作成
↓ ⑨環境影響審査会 ⑩知事の意見
評価書の再検討 ⑪公告・縦覧
↓ ⑫許認可 ⑬工事の実施
事後調査

現在 阿武隈山地風力発電は手続きの②まで、三大明神風力発電は③の段階まで進んでおります。

7月29日から1ヶ月間三大明神風力発電環境影響評価方法書の縦覧が、市役所等で行われます。

7月29日以降、いわき市のホームページからリンクできますので、縦覧し意見を出していきましょう。問い合わせ先 いわき市生活環境部・環境企画課 0246-22-7528

(文責：秋葉)

風力発電問題レポート ver.3

(2016/7/29 いわき山岳会 佐藤勤)

(参考書籍)

- ①「再生エネビジネスがよくわかる本」今村雅人著(秀和システム) ②「風力エネルギー読本」牛山泉著(ohmsha)

<概要>

(1) 発電コスト

石炭 12 円/kwh、太陽光 29 円/kwh、陸上風力 22 円/kwh、洋上風力 36 円/kwh

国の買い取り制度 2012 年導入

風力発電の電力について買い取り価格 20kw 以上 22 円プラス税、20kw 未満 55 円プラス税

(2) 風力発電事業者

最大手 ユーラスエナジー(株) 豊田通商と東京電力が全額出資している。北海道や東北中心に事業展開し、56 万 kw の設備を保有。

2 番手 Jパワー(電源開発) 国内 19 カ所で 38 万 kw を操業している。

3 番手 日本風力開発 国内合計 29 万 kw の風力発電を開発中

(3) 日本風力発電協会

中長期導入目標 V.4.3

2020 年 陸上風力 1020 万 kw

洋上風力 70 万 kw

2050 年 陸上風力 3800 万 kw

洋上風力 1900 万 kw(着床式)

1800 万 kw(浮体式)

(コメント) これによると、2050 年には風力合計 7500 万 kw で一般的原子力発電所の 75 基分に相当。現在の日本の原発 40 基以上を全て風力で賄うという破天荒な計画。自然破壊しても自分の業界のことは考えていないのかも？ それなら津波被害で人の住まなくなった三陸海岸の平野地帯に建設するとか、あるいは、津波を防ぐスーパー堤防上に風力発電機を設置してはどうか？ 元々洋上風力発電のポテンシャルが大きいので、これに注力すべきと思う。

(4) 国内の大型風車メーカー

- ①三菱重工 ②日本製鋼所 ③日立製作所 ④駒井ハルテック

(5) 環境アセスメント業者

風力発電事業者に代わり、適地調査や環境調査を行う環境コンサルティング会社が多数存在する。風力発電の環境アセスメントにおいて、国内トップシェアの事業者は「日本気象協会」となっている。

(6) その他要旨抜粋

- ・風力発電量は風速の 3 乗に比例する。
- ・日本は山岳地帯が多く平野が少ない。大半が自然公園や保護林などの規制を受けており、適地への風車設置が困難な状況にある。今後自然環境との共生をどう図っていくか、関係機関と協議対応が必要。
- ・全国の風況マップは NEDO が公開している。LAWEPS=局所的風況予測モデル。

NEDO の風力発電ロードマップ(予測)によると

2020 年 陸上 620 万 kw、洋上 380 万 kw

2030 年 陸上 700 万 kw、洋上 1300 万 kw

- ・風車ブレードによる風切り音も低周波騒音の要因の一つ。
- ・欧州では風力に適した陸地が少ないため、洋上(オフショア)風力発電が拡大しつつある。つまりオフショア発電が主力の時代に移りつつある。欧州では水深 15m 未満の遠浅の海岸線が多いため。
- ・日本の場合は地形が複雑で、(特に陸地では)風速風向きの乱れや変動が大きい。雷の発生も多い。従って欧州製の風車は日本の気候に適合しない場合がある。
- ・日大生産工学部長井研究室「日本近海風況マップ」によると、日本でもオフショア風力発電が可能な膨大なエリアが存在している。
- ・洋上風力発電はポテンシャルが大きいですが、漁業権の保護、経済性、自然環境保護といった諸課題がある。
- ・ただし、水深が深いと設置工事が困難で、コスト高を招く問題がある。従って「浮体式風力発電システム」に期待がかかっている。(参考: 福島県常磐沖でも浮体式洋上風力発電の実験がスタートしている)

(書籍②の結論 217 頁より転載)

「日本のオフショア風力発電を巡る諸課題はつきないが、このオフショア風力発電こそが持続可能な世界を実現するための鍵で有り、海に囲まれた日本こそがそれを実現するのにふさわしい主役になり得るといえる」